

目次

概要

[2 Codian MCU を渡るカスケードされた会議の作成](#)

[関連情報](#)

概要

この技術情報は Cisco TelePresence MCU 4203、Cisco TelePresence MCU MSE 8420、Cisco TelePresence MCU 4505 および Cisco TelePresence MCU MSE 8510 製品に関連しています。

Q. 2 Codian MCU を渡るカスケードされた会議の作成

A. カスケードされた会議は複数の Codian MCU に発生する単一会議です。これらの MCU は異なる場所にあるかもしれません。カスケードは単一 マスター MCU と 1つ以上のスレーブ MCU の間に発生します。エンドポイントはマスターかスレーブ MCU に接続することができます。各スレーブは H.323 接続上のマスターと通信します。これらの接続は各スレーブ MCU のポートおよびマスター MCU のスレーブ毎に 1つのポートを使用します。

カスケードされた会議の間にスレーブのアクティブなスピーカーからビデオはマスター MCU に MCU 送られます。マスター MCU で、すべてのスレーブ MCU からのビデオおよび直接接続されたエンドポイントは会議レイアウトに従って混合されます。エンドポイントにこれを転送するこのビューは各スレーブ MCU にそれから送られます。これらのエンドポイントのそれぞれは機能に基づいてストリームの別々に符号化されたコピーを受け取ります。

を使用して 3 つの方法でカスケードされた会議を、作成できます:

- [Codian MCU の Webインターフェイス](#)
- [遠隔管理 API](#)
- [Codian 会議ディレクター](#)

Webインターフェイスを使用した会議をカスケードすること

MCU 1 の設定

1. 最初 MCU で (この技術情報の MCU1 と呼ばれる)、**エンドポイント**に行ってください。
2. **H.323** を『Add』 をクリックして下さい。
3. 次のようにフィールドに入力します。名前に関しては、MCU2 を入力して下さいcall out パラメータおよび視聴者参加番組一致パラメータに関しては、MCU2 の IP アドレスを入力して下さいデフォルト ファミリー意見に関しては、フル スクリーン 1 人の参加要素を選択して下さい注 これは MCU1 に直接接続している参加要素が見るビューです。この設定はカスケードがアクティブなとき MCU2 は MCU1 に 1 人の参加要素だけ一度に差し向けるようにするので重要です。表示名上書きするに関しては、単一 スペースを入力して下さい。参加要素の上書きからの MCU がカスケード リンクに沿って指名する precents この、MCU2 の参加要素の名前が表示されることを許可します
4. **エンドポイント**を『Add』 をクリックして下さい
5. **会議 > Add 新しい会議**に行ってください。

6. 名前に関しては、会議の名前を入力して下さい。
7. 数字 ID に関しては、会議のための数値的な ID を入力して下さい (この技術情報で、333)。
8. 常置チェックボックスを選択して下さい。
9. **会議**を『Add』をクリックして下さい。会議リストに戻ります。
10. 新しい会議を選択し、**参加要素**タブをクリックして下さい。
11. MCU1 に直接接続される参加要素を追加して下さい (これに関する詳細については、オンラインヘルプを参照して下さい)。

MCU 2 の設定

MCU が直接通信し、次に会議に MCU1 を持って来ることができるようステップ下記のセットアップゲートウェイ。(ゲートウェイはこの会議が発生する度にだけ)一度設定される必要があり、使用されます。

1. 第 2 MCU で (この技術情報の MCU2 と呼ばれる)、**ゲートウェイ**に行ってください。
2. **H.323 ゲートウェイ**を『Add New』をクリックして下さい。
3. 次のようにフィールドに入力します。名前に関しては、MCU1 を入力して下さい
ForAddress は、MCU1 の IP アドレスを入力します必要であれば、2 MCU の間で呼出すのに使用する帯域幅を制限して下さい表示名上書きするに関しては、単一スペースを入力して下さい。これは防ぎま MCU はカスケードリンクに沿う参加要素名前を上書きすることを MCU1 の参加要素の名前が表示されることを許可します
4. **H.323 ゲートウェイ**を『Add』をクリックして下さい。
5. **エンドポイント**に行き、**H.323**を『Add』をクリックして下さい。
6. 次のようにフィールドに入力します。名前に関しては、MCU1 会議にカスケードを 333 入力して下さいcall out アドレスに関しては、333 を入力して下さいH.323 ゲートウェイに関しては、MCU1 を入力して下さいデフォルト ファミリー意見に関しては、フルスクリーン 1 人の参加要素を選択して下さい自動切断に関しては、『Enabled』を選択して下さい。これはカスケードが会議の終わりに自動切断されることを意味します
7. **エンドポイント**を『Add』をクリックして下さい。

会議の設定

MCU1 の会議を設定するため:

1. **会議**に行き、**会議**を『Add New』をクリックして下さい。
2. 名前に関しては、会議の名前を入力して下さい。
3. 数字 ID に関しては、約定義される数字 ID を入力して下さい (この例でこれは 333) あります。
4. 数字 ID 登録チェックボックスが選択されないことを確かめて下さい。
5. パーマネントを選択して下さい。
6. のために少なくとも 1 人の他の参加要素がいると前もって構成された参加要素を、選択しな誘って下さい。
7. **前もって構成された参加要素**をクリックして下さい。
8. **H.323**を選択して下さい: MCU1 会議に 333 カスケードして下さい。
9. 会議に加入したいと思う他のどの前もって構成された参加要素も選択して下さい。
10. **会議設定への戻り**をクリックして下さい。
11. **会議**を『Add』をクリックして下さい。会議リストに戻ります。
12. 新しい会議を選択し、**参加要素**タブをクリックして下さい。
13. この MCU に直接接続される参加要素を追加して下さい。

会議の開始

MCU1 の会議は開始するとすぐ、MCU2 会議を含む前もって構成されたエンドポイントを 333 呼出します。これは意味します MCU を一緒にカスケードする MCU2 の会議 333 に直接呼出すことを。両方の MCU の会議 333 に接続されるエンドポイントは同じ会議に加わります。

注：

- カスケードはこのように合計 78 のポートを提供する各カスケードのための 2 つのポートを失います
- 機能性は- MCU2 の参加要素のレイアウトを選択する機能のような...カスケードの間で MCU1 に接続される場合失われます
- ユニットを設定することは可能性のあるです従ってスケジュール会議の一部として自動的にカスケードします (1 つは自動的に他にダイヤルし、会議に参加できます。ユニットの間で送信 すべき正しいレイアウトは- 1 つの大きいペイン-前もって構成されます)
- Codian 製品は Radvision と別様にカスケードをします。

[>上](#)

管理 API を使用した会議をカスケードすること

(Codian Webインターフェイスがディレクター) よりもむしろ 2 Codian MCU を渡る会議を管理 API を使用してカスケードするため:

- 補足的なパラメーター linkType=cascadeSlaveToMaster との participant.add を使用して「スレーブ」MCU に参加要素を追加して下さい (遠隔管理リファレンス ガイドを参照して下さい) 。
- participant.add を使用しているカスケード参加要素を作成する時、直接「マスター」MCU の会議に呼出すため:アドレス パラメータのために会議 ID を入力して下さいgatewayAddress パラメータのためにマスター MCU の IP アドレスを入力して下さい

会議の間にマスターはスレーブに MCU スレーブは 1x1 音声スイッチド レイアウトを送信 するが、CP レイアウトを送信 します。スレーブ MCU のすべての参加要素はスレーブの最も騒々しい参加要素を常に示すペインの 1 つのマスターから、送信 される レイアウトを表示 します。


[>上](#)

Codian 会議ディレクターを使用した会議をカスケードすること

カスケードされた会議を Codian 会議ディレクターを使用して作成するため:

1. 選択して下さい Codian MCU がマスター MCU である。
2. 必要ならば MCU によってビュー > グループに行ってください。
3. 次のいずれかを実行してください。カスケードされた会議を「全く最初から」作成するために、ツリー表示のマスター MCU を右クリックし、会議を『Create』を選択して下さい。(代わりに、マスター MCU を選択し、次に会議に > 作成するか、会議をまたはクリック します作成会議ツールバー アイコンを行ってください。) テンプレートからのカスケードされた会議を作成するために、ツリー ViewThe のマスター MCU にウィンドウが会議ダイアログを開く作成する会議テンプレートからのテンプレートを引張ってください。テンプレートに完了した MCU アドレスがあった場合ことに注目して下さいテンプレートをに廃棄した ことこの MCU アドレスは MCU のそれによって上書きされます。これがまた会議テンプレートのスレーブ MCU の 1 のアドレスである場合、『OK』をクリック する場合エラーメッセ

ージが表示されます。

4. 参加要素ページで通常の方法のマスター MCU によって呼出されるあらゆるエンドポイントの詳細入力して下さい/アップデート。
5. 会議の詳細入力して下さい/アップデート: スレーブ MCU がマスター MCU に接続するようにこれが必要となるので General ページのマスター MCU の会議のための数字 ID を設定することを忘れないで下さい。注 カスケードする会議のための開始時刻は会議に関連するすべての MCU でタイムゾーンオフセットを設定した限り正しく設定されます; Codian ディレクター、マスター MCU および軟膏 MCU が同じまたは異なるタイムゾーンにある場合重要ではありません。時間設定される現地時間で、マスター MCU のタイムゾーンオフセットができるように調節されるです; 各スレーブ MCU の開始時刻はマスター MCU 間の時間の相違ゾーンを考慮に入れるためにことスレーブ MCU 設定され。
6. スレーブ MCU のエンドポイントによって選択し、レイアウトページを見られる開き、ビューを会議カスタムレイアウトを『Enable』を選択し、新しい参加要素にこのビューを見させます。
7. レイアウトを『Set』をクリックし、ビューを選択して下さい。[OK] をクリックします。
8. カスケードする ページを開いて下さい。
9. 新しいスレーブ MCU を追加するために、『Add』をクリックして下さい。
10. add によってカスケードされる会議ダイアログは General ページと開きます開きます。このダイアログにリポート ページを除いて作成会議ダイアログと同じページがあります。
11. それにスレーブ MCU で現われ、MCU の IP アドレスを入力してほしいように会議の名前を入力して下さい。
12. General ページでは数字 ID を必要であれば入力することができますがマスター MCU の会議のために入る数字 ID を使用しないことを推奨します。
13. 参加要素ページでこのスレーブ MCU に接続される参加要素の詳細を追加して下さい。
14. 他のページで必要な他のどの情報も追加して下さい。
15. [OK] をクリックします。MCU の名前はカスケードする ページで表示する。
16. すべてのスレーブ MCU が設定されるまでステップ 7 から繰り返して下さい。
17. スレーブ MCU の会議の詳細を改めるために、ステップ 7 から繰り返し、しかし MCU を強調表示し、ステップ 8 で『Edit』をクリックして下さい。
18. テンプレートがこのカスケードする会議に基づいて必要となる場合、会議テンプレートに『Add』を選択して下さい。
19. 以前に入らないマスター MCU の会議のための残りの詳細を入力して下さい。[OK] をクリックします。
20. MCU ダイアログへの接続応答にまだ接続されていないこと MCU の IP アドレスを表示する入力したら。その MCU の管理者権限のユーザのユーザ名 および パスワードを入力し、『OK』をクリックして下さい。会議は作成されます。それがアクティブである時、スレーブ MCU のアイコンはそれがカスケードされた会議であることを示します。

[> 上](#)

関連情報

- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)